

古典探究	単位数	4単位	学科・学年・学級	
------	-----	-----	----------	--

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 使用教科書など

使用教科書	東京書籍「精選古典探究 古文編・漢文編」(古探 002-903・002-904)
副教材など	「精選古典探究 古文編 学習課題ノート」「精選古典探究 漢文編 学習課題ノート」(準拠ノート) / 「新総合図説国語」 / 「新精選古典文法」 / 「新精選古典文法 実戦ノート」 / 「新精選古典文法 演習ノート」 / 「新精選古典文法 準拠ノート」 / 「新徹底理解高校漢文」 / 「新徹底理解高校漢文ワーク」 / 古語辞典 / その他、QR コンテンツ(教科書)、指導用 DVD-ROM 収録の補助資料など

3 評価の3観点と学習指導要領との対応

平成30年告示の学習指導要領では、評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つとなった。

学習指導要領との対応は以下のとおりである。

- ・「知識・技能」：学習指導要領の〔知識及び技能〕について指導したことを評価する。
- ・「思考・判断・表現」：学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕について指導したことを評価する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」：学習指導要領に直接該当する項目はないが、次の2つの側面を評価することが求められている。
 - ② 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面。

②①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

4 「年間指導計画例」の見方

本資料の各項目の概要は、以下のとおりです。

《薄いグレーの見出し》

・学期と各編の単元番号と名称、配当月を示した。

《領域・教材名・ページ数・配当時数》

・領域（読む）、教材名、ページ数、配当時数を示した。

《学習指導要領との対応》

・学習指導要領の指導事項や言語活動例との対応を示した。

記号の意味

[知技] …… 「知識及び技能」の指導事項

[思判表] …… 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

⊕ …… 「思考力、判断力、表現力等」の言語活動例

《学習目標》

・附録「この教科書で学ぶこと」に掲載の学習目標を示した。

《学習活動例》

・配当時数の中で考えられる学習活動の例を示した。

記号の説明

* …… 指導上の留意点や別案

《評価規準例》

・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による評価規準例を示した。

・「知識・技能」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔知識及び技能〕の指導事項の文言をそのまま用いて、文末を「～している。」とした。

・「思考・判断・表現」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の文言をそのまま用いて、冒頭を「（領域名）において、」として領域を明示し、更に文末を「～している。」とした。

・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準例は、扱っている全ての指導事項について設定した。

・「主体的に学習に取り組む態度」は、次の4つの内容を全て含め、各教材の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫しながら設定している。また、文末は「～しようとしている。」とした。

- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

記号の意味

[知技] …… 「知識・技能」の評価規準例

[思判表] … 「思考・判断・表現」の評価規準例

[主] …… 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例

◆年間指導計画例《部分サンプル》

I部 2年次2単位配当

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領と の対応	学習目標	学習活動例 (*は指導上の留意点など)	評価規準例
■ = 学期				
古文編4 軍記物語 (=月)				
読む 平家物語〔言語〕 P44 2時間 ■ 古文の窓7 『平家物語』諸本と『建礼門院右京大夫集』が描く乱世	【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、カ ㊦ 読むこと(2)エ 【知技】(1)イ／(2)ア 【思判表】読むこと(1)エ	・朗読などを通して、内容の解釈を深めたり、表現の特色について理解を深めたりする。	□平安末期の混乱した時代背景についてまとめる。 □「忠度の都落ち」と「壇の浦の合戦」の『平家物語』における時代・時間的な位置づけを明らかにする。 【忠度の都落ち】 1 全体の構成を意識しながら通読して、あらすじをつかむ。 2 第一段落の忠度と俊成の対面の場面における、二人の心情を読み取る。(手引き1) 3 第二段落における忠度の述懐の内容と心情を読み取る。(手引き2) 4 第二段落における、俊成の忠度に対する思いを読み取る。(手引き1) 5 後日談である第三段落の内容を読み取る。(手引き3) 【壇の浦の合戦】 1 全体の構成を意識しながら通読して、あらすじをつかむ。	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作

			<p>2 第一段落と第二段落における、教経の奮戦の様子を読み取る。</p> <p>3 教経がどのような人物として描かれているか考える。(手引き1)</p> <p>4 第三段落の知盛の発言に着目し、知盛がどのような人物として描かれているか、教経と対比しながら考える。(手引き1・2)</p> <p>5 最後の場面の描写からどのような感じを受けるか話し合う。</p>	<p>品の価値について考察している。</p> <p>・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>[主] 進んで軍記物語の表現の特徴について整理・理解しつつ特徴を生かすよう工夫して朗読し、学習課題に沿って描かれた人物像を読み取ろうとしている。</p>
<p>読む</p> <p>〔言語〕「忠度の都落ち」を読み比べる</p> <p>P48</p> <p>1時間</p>	<p>[知技] (1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ウ、エ、ク</p> <p>㊦ 読むこと(2)イ</p>	<p>・複数の文章を読み比べ、作品を多面的・多角的な視点から評価する。</p>	<p>1 第一段落の「忠度と俊成の関係」の描き方の違いを読み取る。(課題)</p> <p>2 第一段落の「忠度と俊成の別れの場面」の描き方の違いを読み取る。(課題)</p> <p>3 第二、三段落の『千載和歌集』における忠度の和歌の扱いの描き方の違いについて読み取る。(課題)</p> <p>4 「延慶本」と「覚一本」の読み比べからわかったことをまとめ意見を出し合う。(課題)</p> <p><input type="checkbox"/> 「忠度の都落ち」と「壇の浦の合戦」に描かれた、死に直面する人物が何を考え、何を思っていたのかをまとめる。</p> <p><input type="checkbox"/> 情景や作中人物の心情に注意し、古文のリズムを生かして朗読する。(言語活動1)</p> <p><input type="checkbox"/> 『建礼門院右京大夫集』での描かれ方の違いについて考える。(古文の窓7)</p>	<p>[知技]</p> <p>・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。</p> <p>・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。</p> <p>・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。</p> <p>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。</p> <p>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。</p> <p>・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作</p>

				<p>品の価値について考察している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>[主] 進んで複数の作品の共通点や相違点について整理・理解し、学習課題に沿って各作品の表現上のねらいについて意見を述べ合い、自分の考えを深めようとしている。</p>
--	--	--	--	---

漢文編8 文1 (=月)

<p>読む 文一三編</p> <p>P88 3時間</p>	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ/(2)イ、エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ、オ、キ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開を理解し、さまざまなもの見方、考え方に触れる。 	<p>□『楚辞』の概要と屈原の生きた時代、屈原の略歴について確認する。</p> <p>□『陶淵明集』の概要と陶潜の生きた時代、陶潜の略歴について確認する。</p> <p>□『古文真宝後集』の概要と李白の生きた時代、李白の略歴について確認する。</p> <p>【漁父辞】</p> <p>1 本文を正しく音読する。</p> <p>2 第一段落について、正確に現代語訳し、内容を理解する。(手引き1)</p> <p>3 漁父と屈原の主張をまとめる。(手引き2・3)</p> <p>4 第二段落について、正確に現代語訳し、内容を理解する。</p> <p>5 漁父の考えをまとめる。(手引き2・3)</p> <p>6 屈原の生き方と漁父の生き方について意見を述べ合う。(手引き4)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や
---------------------------------------	---	--	--	--

		<p>7 「や」「と」「ともニ」以外の「与」の読みを調べる。(語句と表現1)</p> <p>【五柳先生伝】</p> <p>1 本文を正しく音読する。</p> <p>2 脚注・辞書等を参照して、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。(手引き1)</p> <p>(語句と表現1)</p> <p>3 登場人物の人柄について整理し、人物像を把握する。(手引き2)</p> <p>4 「五柳先生伝」に見える作者陶潜の人生観について確認する。(手引き3)</p> <p>【春夜宴桃李園序】</p> <p>1 本文を正しく音読する。</p> <p>2 脚注・辞書等を参照して、語句・句法の意味・用法に注意しながら正確に現代語訳し、内容を理解する。(手引き1)</p> <p>3 各段落の要点を整理し、話の展開をまとめる。(手引き2)</p> <p>4 文章の表現の上で、工夫された特徴とその効果について確認する。(語句と表現1)</p> <p>5 本文に表された作者の人生観について確認する。(手引き3)</p> <p>□ 屈原・陶潜・李白、それぞれの人生観に</p>	<p>文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>[主] 三つの文章に表されたそれぞれの人生観について進んで理解を深め、学習課題に沿ってまとめたり発表したりしようとしている。</p>
--	--	---	---

			ついてどう思うか、意見交換をし、自分の人生観とも照らし合わせ、理解を深める。	
--	--	--	--	--